

授業科目名 (英文表記)	会計史特殊問題 (Accounting History)		
単位数	2	授業形態	講義・演習
担当教員	三光寺 由実子		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間 ※240分×6回 (合計90分間の 休憩含む)	第1回 4月14日(土) 13:00~17:00	第4回 6月9日(土) 13:00~17:00	
	第2回 5月12日(土) 13:00~17:00	第5回 6月23日(土) 13:00~17:00	
	第3回 5月26日(土) 13:00~17:00	第6回 7月7日(土) 13:00~17:00	
<p>【授業の概要・ねらい】 会計の計算構造を支え、今日商業・工業をはじめ広く普及している複式簿記について、その根本原理は15世紀にイタリアの地で完成している。本講義では、複式簿記が13~14世紀においてどのようにして生成し、15世紀に確立したのか、さらにはその後16~18世紀までの各国においていかにして簿記の知識が伝播し、19世紀の社会経済的背景の変化に伴う、複式簿記から会計へと発展した過程を追う。</p> <p>【授業計画】 第1回 イントロダクション：会計史とは何か/複式簿記の中世イタリア起源説 第2回 ルカ・パチョーリの「スムマ」(1494)とヴェネツィア式簿記/中世イタリア近辺の簿記 第3回 ネーデルラントへの複式簿記の伝播/イギリスへの複式簿記の伝播 第4回 18世紀スコットランド啓蒙と資本主理論の萌芽/イギリスにおける資本主理論の登場 第5回 アメリカへの複式簿記の伝播と資本主理論の移植・展開・確立 第6回 資本主理論の転換：簿記の理論から会計の理論へ</p> <p>【到達目標】 複式簿記の歴史的展開の過程について、一応の全体像を説明できる。</p> <p>【成績評価の方法】 中間レポート(40%)(全2回・各20%)、および期末レポート(60%)により評価を行う。</p> <p>【教科書】 中野常男「会計理論生成史」中央経済社、1992年(印刷したものを、こちらで用意する)。</p> <p>【参考書・参考文献】 中野常男・清水泰洋編著「近代会計史入門」同文館出版、2014年。 三光寺由実子「中世フランス会計史-13-14世紀会計帳簿の実証的研究-」同文館出版、2011年。</p> <p>【履修上の注意・メッセージ】 本講義は、全て受講することで会計史の全体像が把握できるように構成されている。欠席・遅刻は認めない。</p> <p>【履修する上で必要な事項】 受講希望者は必ず初回の講義に参加すること。</p> <p>【授業時間外学習についての指示】 講義では、複式簿記の歴史を取り上げるので、複式簿記の基礎知識(目安としては日本商工会議所主催・簿記検定試験の3級程度)を習得していること。特に、簿記手続きの一巡をよく理解しておくこと。また、ヨーロッパおよびアメリカの一般史・経済史の基礎知識を有しておくことが望ましい。</p> <p>【その他連絡事項】 特になし</p>			